

前回のまとめ（委員意見） ～平成29年度のフレイル予防活動（取り組みと提言）～

フレイル予防活動における取り組み

- * 健康づくり業務連絡会での庁内における情報の共有と連動
- * 健康増進計画におけるフレイル予防が位置づけされた取り組み
- * 「柏フレイル予防プロジェクト2025」の冠掲載（ロゴタイプ）
- * 市民全体を対象にした情報発信（イベント）の開催
- * サロンやカフェなど身近な地域での自主活動の支援
- * フレイル予防に取り組むための道しるべとしてのフレイル予防マップの作成及び配布
- * 運動を習慣付けるため、集まりやすく、継続性を保ちながら回数を重ねる企画づくり
- * 楽しめる企画を工夫しての開催
- * サロンや通いの場を活用したフレイル予防活動の普及・啓発
- * 若い世代へのフレイル予防の啓発（年齢的早期介入）
- * フレイル予防活動を知ってもらうための学びの場と情報を交換する場の提供

フレイル予防活動への提言

- * フレイル予防については、今すぐ進めるという認識が必要（2025年までの目標ではない）
- * 「社会参加が弱るのを防ぐ」ということをプロジェクトにおいてコンセンサスする
- * 3つの柱（栄養・運動・社会参加）が大事となることを共通項として認識する
- * 三位一体の活動の場としてのラジオ体操の活用
- * フレイルチェック：年間 5,000人の実施 ⇒ 2025年までに20,000人の実施
- * 庁内における情報の共有と連携をもつての関係団体(機関)の連携活用
- * 市民全体を対象にした情報発信（イベント）の開催
- * フレイル予防活動への主体的な参画（私の部署(ところ)はこれができるなど）
- * 各健康事業プログラム参加者 ⇒ 健康熱心な人の参加が中心となっているように映っている
- * 地域の特性・ニーズの把握の下での地域単位での受け皿づくり
- * 特定健診を活用したマイドクター制の導入（かかりつけ医の普及とデータの活用）
- * 栄養・運動・社会参加をパッケージ化したフレイル予防のプログラム提供
- * フレイル予防プログラム（出前講座など）の土・日曜日の実施
- * 予防プログラムについては、受け身の企画ではなく、自ら求め・参加する機運が必要
- * ひとりひとりの意識・行動変容だけでなく、地域ぐるみでの底上げが重要
- * 循環型のまちづくりに向けた長期展望に基づいた取り組み